


IIAS NEWSLETTER

International Institute for Advanced Studies

October 2004

40

 財団法人
国際高等研究所

<http://www.iias.or.jp>
印は、高等研ホームページに詳細掲載

index

報 告

フェロー公開講演会 「東南海・南海地震と文化遺産」……………2004.5.15
講師:土岐 憲三(高等研フェロー)

国際会議 「ナノスピントロニクスデザインと創製に関する国際会議」……………2004.5.24~28

**けいはんな茶会と
文化学術公開講演会 「茶と絵画—日本の美意識—」**……………2004.6.19
講師:佐々木 正子(京都造形芸術大学大学院客員教授)

募 集

フェロー公開講演会 **「日本語と英語—話し方の違い、書き方の違い—」**
講師:藤村 靖(オハイオ州立大学名誉教授)……………2004.11.13(土)14:00~16:00

- 新刊案内 高等研選書20 「宇宙の謎を素粒子で探る」 政池 明 著
- 高等研フェロー 森嶋通夫先生 御逝去のお知らせ
- 研究活動・公開事業等の状況

報 告

「東南海・南海地震と文化遺産」概要

フェロー公開講演会 2004.5.15

土岐 憲三氏(立命館大学理工学部教授、京都大学名誉教授)

数十年以内に起こるであろう「東南海・南海地震」や、それに関連して起こる「内陸地震」による火災から、先人の精神活動の証である「文化遺産」をいかにして守ればいいのか。近畿圏における「内陸地震」は、さまざまな経験則と調査結果から、阪神・淡路大震災を先駆けとして、新しい「活動期」(約70年間)に入った、との見方が有力であり、明日にも「花折断層」が京都などの市街地を大きく揺るがすかもしれない。老朽化した木造家屋の多い京都の市街地は、地震による同時多発的な大火災で“丸焼け”となり、貴重な文化

財の数々は完全に焼失するだろう。この悲劇を避けるためには、琵琶湖からの疎水の水を活用して、文化財の目的建造物周辺に「災害発生とともに外部からの火を遮断する“水のカーテン”を自力で張り巡らすシステム」を完備するべきである。大学の研究拠点を整備するとともに、「文化財を地震火災から守る協議会」やNPO法人「災害から文化財を守る会」などを結成して、「地震専門調査会」など行政の場や一般講演会など機会あるごとに、「都市防災」の必要性を訴え続けている。(文責:事務局)

『ナノスピントロニクスデザインと 創製に関する国際会議』ICNDR

2004.5.24 ~ 28

大阪大学との共催による本国際会議は、欧米各国からスピントロニクス関連分野の著名な研究者を網羅して招くことができ、また、アジア近隣からの参加者も多く迎えた。本国際会議の開催の契機となった文部科学省科学技術振興調整費「ナノスピントロニクスデザインと創製」プロジェクトで構想された理論研究者によるデザインと実験研究者による創製の観点を前面に押し出した研究体制が、世界的にも珍しい試みであったことが内外の注目を集めた理由であろう。会期中に開催された内外の専門家によるアドバイザリー委員会で、この試みを継続して推進する必要性が認識され、第2回ICNDRを2007年にドイツで開催

することが決定された。

会議では、「A 新材料・物質」と「B 新現象」について、理論計算によるナノマテリアルとデバイスのデザインとその実験的創製の観点から白熱した討議が行われた。また、ポスタービュータイムおよびオフプログラムの時間でも熱心に討論が継続され、深夜におよんだ。研究者間の交流は、学術的なものにとどまらず、研究者相互の個人的な絆を強め、研究コミュニティの形成に結実したことも大きな成果である。

会議の学術的成果は、学術論文誌 “Journal of Physics Condensed Matter” に会議録として出版される。
(文責:事務局)

「けいはんな・茶会と文化学術講演会」

2004.6.19

本年度4回目となる「けいはんな・茶会と文化学術講演会」に近畿一円から多数が参加し、『水』をテーマに道具組みされた茶席では、本間宗壽・茶道裏千家正教授の説明を聞きながら、薄茶一服を楽しんだ。また、お点前体験コーナーでは、盆略点前の指導を受け、気軽に抹茶を点てることを体験した。

同日開催された講演会では、高等研企画委員の佐々木正子教授から「茶と絵画 日本的美意識」と題して「なぜ絵画がお茶と関わりを持つようになったのか」などについて講演があった。(以下は講演概要)

講演テーマ「茶と絵画—日本の美意識—」

佐々木 正子(京都造形芸術大学大学院客員教授)

「絵画」と「お茶」の出会い

世界各国でお茶は飲まれているのに、我が国において、なぜ「茶道」という特別な形式が築かれ、その場に絵画が飾られるのか。当初、仙薬として日本に入ってきたお茶は貴重なものだった。明貿易が盛になると、茶と共に中国の茶道具、美術品、絵画も流入した。中国文化への憧れが強かった当時、貴重な飲み物であるお茶と、貴重な中国の茶道具や絵画などの美術品を味わうことは、上層社会では極めて文化的行為となっていく。こうして絵画はごく初期から茶事と深い係わりを持つようになった。



お点前を体験する参加者

「絵画」を飾る効用

現在では、一行書などを飾るが、当初茶事は珍しい中国の美術品を鑑賞する場でもあったことから、主に

中国の絵画、「唐物」が飾られることが多かった。茶席に絵を飾ることで、季節感やある内容など、その場の雰囲気を設定することができ、席を共にする人々はお茶を味わうと共に一幅の絵画を味わって、深い美の境地に浸ることが可能となる。

「日本の美意識」の源流としての足利時代

我が国での茶道は、村田珠光以降、侘茶としての方向性を持つが、それには茶道成立の時期が、足利時代の北山文化、東山文化の熟成の時期であったことと深く関わっていると考えられる。中でも、当時の儒教、道教、仏教(禅)という思想的背景との係わりは大きく、秩序を重視する儒教的志向は茶道としての形成に大きく影響を与えたと思われる。自然を重視する道教的意識は、当時の文化芸術に自然との一体感を生み出し、また、禅による自己の内的世界を見つめる視線は、文化芸術の熟成に深みを与えている。

北山文化、東山文化を素地に成立したのは、茶道に限らず、能や連歌など、日本的といわれる多くの文化

芸術に見られ、例えば絵画でも「無限定空間表現」という、西洋的三次元空間把握ではない、東洋画特有の精神的広がりを見せる空間表現を発達させるなど、我が国の絵画表現の骨格となる思想の基盤を作った時代ともいえる。

鑑賞者の役割

我が国特有な絵画表現は、無駄を削ぎ落とし、洗練させ、これ以上削れないというシンプルな表現をとるものが多く、西洋絵画のように具体的で、誰が見てもわかるという合理性に則したものではない。鑑賞者が自らの知識や感性を加えることで、想像をプラスし、作品の描かれていない部分を埋めることを通して作品を豊かなものとしていく。日本の絵画は制作者の表現と鑑賞者の思いとが合体することで、初めて完成するといえる。精神活動が加わることによって、より深い味わいが得られるのは、絵画もお茶事も同じではないでしょうか。(文責:事務局)

聴講者募集

「日本語と英語—話し方の違い、書き方の違い—」

フェロー公開講演会
2004.11.13

公開講演会 聴講者募集中

講師：藤村 靖 オハイオ州立大学名誉教授・
高等研フェロー
開催日時：2004年11月13日(土)午後2時~4時
会場：国際高等研究所レクチャーホール
定員：120名(先着順) 無料

応募方法：連絡先を記入の上

「藤村講演会」係まで。
詳細はホームページ参照。



講演趣旨

日本語と英語はどう違うか、その話し方について比べる。まず抑揚の違いを、ストレスやアクセントと呼ばれる現象について、そして母音の弱まり、子音のかたまりについて比較する。アルファベットを使った書き方は日本語に役立つか、英語の場合はどうか、漢字の効用はどんなところに現れるか、新しい言語学から見たとき何がいえるかを考えてみる。

新刊案内—高等研出版物

9月16日発行

高等研選書20 『宇宙の謎を素粒子で探る』...定価：本体900円(税別)

紹介

20世紀の後半から現在までに解き明かされた数々の宇宙の謎を素粒子的視点から探り、21世紀の課題を分かりやすく解説する。

著者：政池 明 京都大学名誉教授・高等研フェロー

日本学術振興会ワシントン研究連絡センター・センター長

高等研フェロー 森嶋通夫先生 御逝去のお知らせ

森嶋通夫先生(ロンドン大学名誉教授、大阪大学名誉教授)が、7月13日、ロンドンにて御逝去されました。

高等研には、1998年度フェローとして、研究所敷地内の宿舎に御滞在いただき、御執筆活動をされたり、研究会を開催されておられました。享年80歳でした。謹んで御冥福をお祈り申し上げます。



研究活動及び公開事業の状況

研究活動

2004年10月～12月

開催月日	研究会内容	研究会代表者
10月2日	「分化全能性」研究会	原田 宏
10月9日	「開発途上国と日本人長期政策アドバイザー」研究会	橋本日出男
10月11日	「芸術と社会」絵画分科会	佐々木正子
10月12日	「災害観の文明論的考察」研究会(東京)	小堀鐸二
10月14日～16日	フンボルト財団との共催シンポジウム	Joachim J. Hesse
10月15日～16日	「思考の脳内メカニズム」研究会	波多野諠余夫
10月16日	「スキルの科学」研究会	岩田一明
10月30日	「芸術と社会」茶道分科会	佐々木正子
11月6日	「21世紀の宇宙開発・宇宙環境利用の問題」研究会	木下富雄
11月6日	「芸術と社会」能楽分科会	佐々木正子
11月16日～17日	「ダイナミクスからみた生命的システムの進化と意義」ワークショップ	津田一郎
11月19日～21日	「量子情報の数理」研究会	大矢雅則
11月20日	「芸術と社会」茶道分科会	佐々木正子
11月26日～27日	「思考の脳内メカニズム」研究会	波多野諠余夫
11月26日～27日	「生物科学におけるモデルの役割」フォーラム	森田敏照
11月27日	「スキルの科学」研究会	岩田一明
11月27日～28日	「科学と芸術のはざま」フォーラム	本河光博・新庄輝也・遠藤康夫・伊藤厚子
12月3日～4日	「物質科学とシステムデザイン」合同分科会	金森順次郎
12月18日	「センサー論」研究会	鷲田清一

公開講演会等

2004年9月～12月

開催月日	テーマ	講演者
9月18日(土)	「文明のアーカイブ コンピュータ民族学の展開」	杉田繁治
10月23日(土)	親子 サイエンス・スクール2004	本河光博・鳥海光弘
11月13日(土)	「日本語と英語 話し方の違い、書き方の違い」	藤村 靖
12月4日(土)	奈良女子大学との共催「日本美術のなかの子供たち」	加須屋 誠

その他の動向

2004年8月～10月

開催月日	研究会内容	摘要
8月27日	所長会議	正副所長
9月18日	所長会議	正副所長
10月29日～30日	企画委員会	正副所長、企画委員、特別委員、フェロー

高等研フェロー等の滞在

2004年4月～翌3月

開催月日	滞在研究者	摘要
4月1日～1ヶ月	藤村 靖(米国オハイオ州立大学名誉教授)	フェロー
8月5日～9月9日	吉田 忠(東北大学名誉教授)	フェロー
10月19日～27日	川崎恭治(九州大学名誉教授) 金報秀(韓国昌原大学教授)	特別研究

編集・発行者

財団法人 国際高等研究所

〒619-0225 京都府相楽郡木津町木津川台9丁目3番地
 TEL : 0774-73-4001 FAX : 0774-73-4005
 E-mail : editor@iias.or.jp
 http://www.iias.or.jp